



ADVANTEST.

2013年度 決算説明会

(訂正後)

2014年4月24日

株式会社アドバンテスト

* 資料中の赤字は5月28日付で発表した決算数値の訂正箇所です

ご注意

- ◆当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST.



ADVANTEST.

2013年度 決算報告

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

業績概要

(単位:億円)

	2012年度 通期	2013年度								
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	1月 時点 予想	4Q 実績	前期比 (%)	1月 時点 予想	通期	前年度 比(%)
受注高	1,257	395	214	274	317	391	42.3	1,200	1,274	1.3
売上高	1,329	301	295	197	307	326	66.4	1,100	1,119	-15.8
売上原価	640	148	160	152	-	166	10.0	-	626	-2.2
売上総利益	689	153	135	45	-	160	256.0	-	493	-28.4
営業利益	1	-33	-47	-264	-16	-20	-	-360	-364	-
営業外収支	-14	5	1	-5	-	8	-	-	9	-
税引前純利益	-13	-28	-46	-269	-16	-12	-	-359	-355	-
当期純利益	-38	-36	-57	-248	-18	-14	-	-359	-355	-
受注残	164	258	177	255	264	320	25.2	264	320	94.3

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

○ 2013年度通期の業績概要

- 受注高 1,274億円 前年度比 1.3%増
- 売上高 1,119億円 前年度比 15.8%減
- 営業損失 364億円
- 税引前純損失 355億円
- 当期純損失 355億円
- 半導体試験装置市場が2013年に大きく落ち込んだ影響を受け
テスタ売上が振るわなかった一方で、円安の影響により外貨コスト負担が増加
- 業績の悪化を踏まえ、第3四半期に棚卸資産の評価減、
長期性資産の減損を実施
- 営業外利益 9億円の主なものは 投資有価証券売却益 14億円

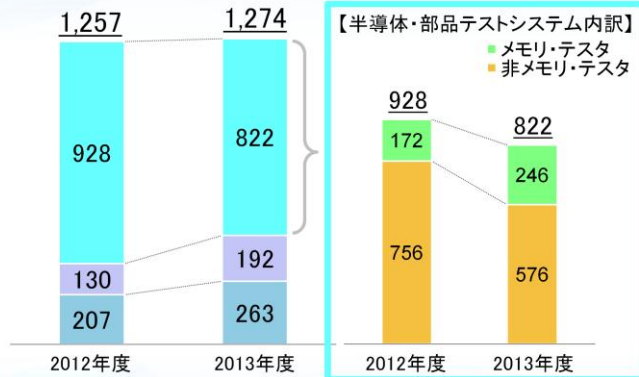
○ 2013年度第4四半期の業績概要

- 受注高 391億円 前期比 42.3%増
- 売上高 326億円 前期比 66.4%増
- 営業損失 20億円
- 税引前純損失 12億円
- 当期純損失 14億円

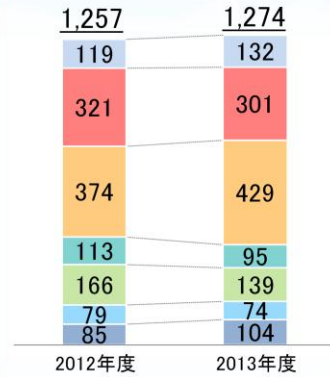
- 受注残 320億円 前年度末比ほぼ倍増

2013年度 受注高実績

【事業セグメント別】(億円)



【地域別】(億円)



■ 半導体・部品テストシステム ■ メカトロニクス関連 ■ サービス他

■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

○ 事業セグメント別、地域別の通期受注実績

○ 事業セグメント別

- 半導体・部品テストシステム事業 822億円 前年度比11%減
軟調なパソコン市場の影響で、MPU向けが低調
ハイエンド・スマートフォン向け需要の盛り上がりを持続せず
2013年の年央から年末まで、非メモリ・テスタ需要が減退

メモリ・テスタはデバイス需給のタイト感が続いたことで
需要が伸長

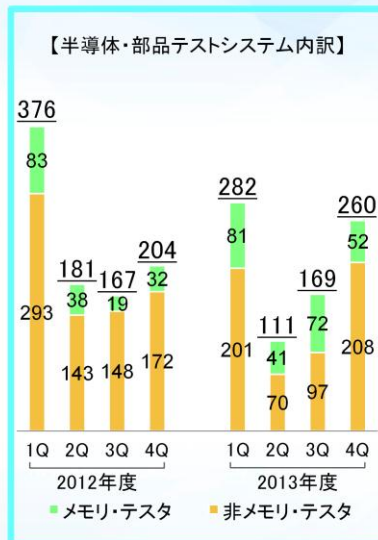
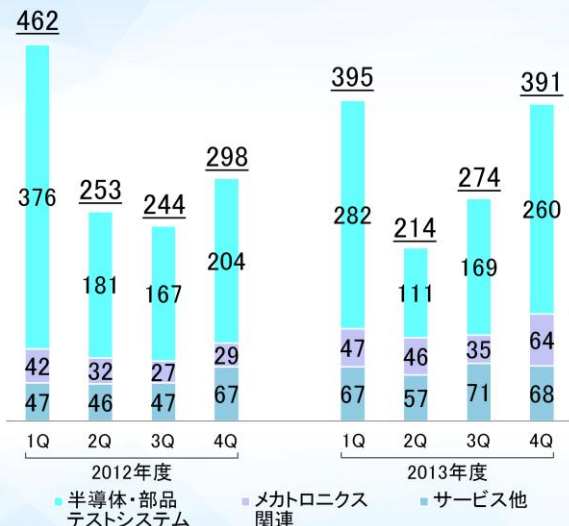
- メカトロニクス関連事業 192億円 前年度比47%増
デバイス・インタフェースの顧客拡大とナノテクノロジー事業の
新製品効果により伸長
- サービス他事業 263億円 前年度比27%増
保守契約の拡大

○ 地域別

- 期初期末にスマートフォン関連需要が旺盛だった台湾が伸長

受注高 四半期・事業セグメント別

(億円)



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

○ 2013年度第4四半期の事業セグメント別受注高

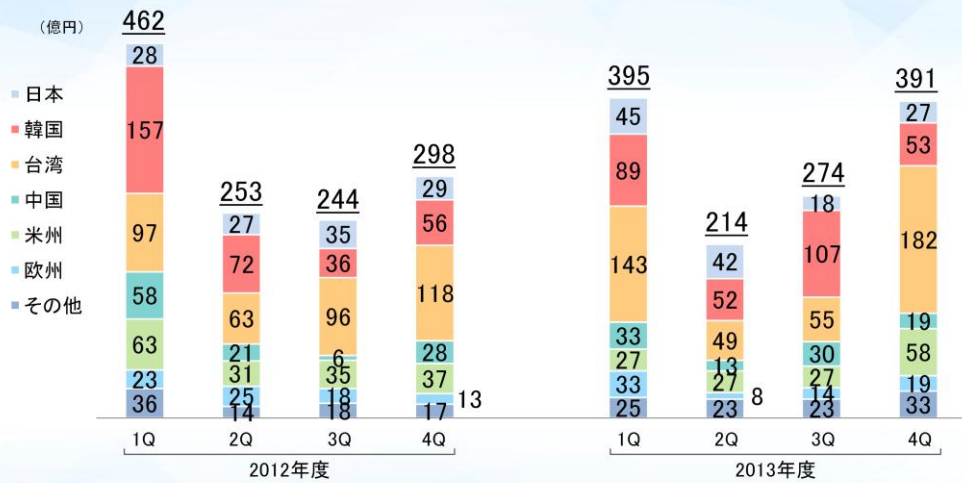
○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比53%増 260億円
うち非メモリ・テスタ 208億円
メモリ・テスタ 52億円
- 中国LTE関連投資拡大の恩恵を受け、通信用ICテスト分野に強い非メモリ・テスタ「V93000」への引合いが増加
MCU向け、車載向けなど強化中の分野も一定の成果

○ メカトロニクス関連事業

- 前期比81%増 64億円
- 半導体の微細化進行を背景に、ナノテクノロジー製品への引合いが増加

受注高 四半期・地域(出荷先)別



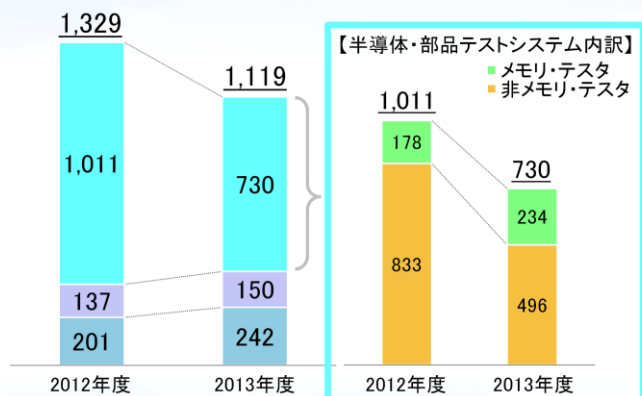
ADVANTEST.

○ 2013年度第4四半期の地域別受注高

- 台湾
中国LTEをはじめとするモバイル関連需要の活発化を背景に
非メモリ・テスト需要が増加
- 韓国
DRAM前工程投資の一巡による減少

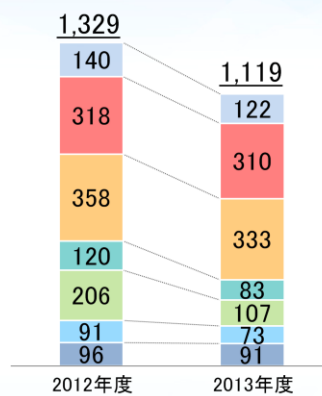
2013年度 売上高実績

【事業セグメント別】（億円）



■ 半導体・部品テストシステム ■ メカトロニクス関連 ■ サービス他

【地域別】（億円）



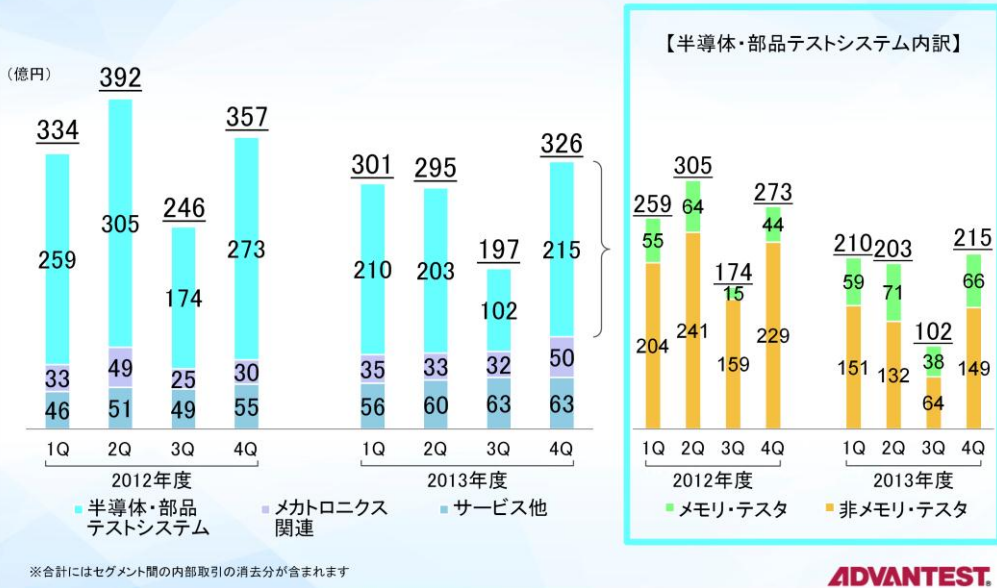
■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

- 事業セグメント別、地域別の通期売上実績
- 事業セグメント別
 - ・ 増減要因は受注高の増減要因と同一
 - ・ 半導体・部品テストシステム事業 730億円 前年度比28%減
 - ・ メカトロニクス関連事業 150億円 前年度比10%増
 - ・ サービス他事業 242億円 前年度比20%増
- 地域別
 - ・ 全体的に減少

売上高 四半期・事業セグメント別



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2013年度第4四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比倍増 215億円
うち非メモリ・テスト 149億円
メモリ・テスト 66億円

(主な増加要因)

モバイル関連の半導体増産傾向の中、非メモリ・テストへの顧客の設備投資意欲が回復

○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比52%増 50億円

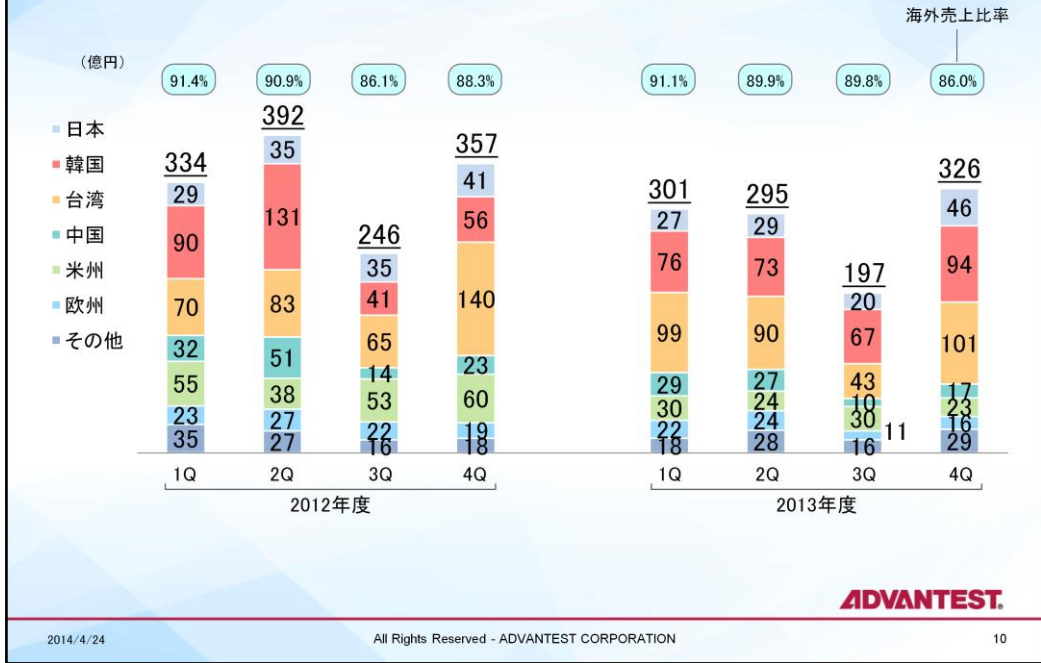
(主な増加要因)

ナノテクノロジー新製品の売上が寄与

○ サービスその他事業

- ・ 前期比横ばい 63億円

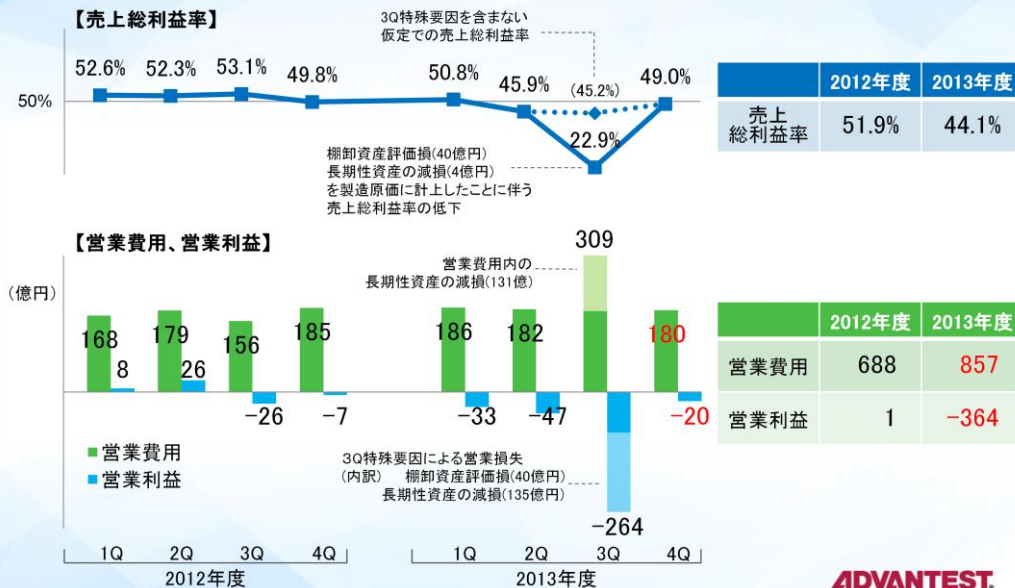
売上高 四半期・地域(出荷先)別



○ 2013年度第4四半期の地域別売上高

- 台湾
モバイル関連機器向けに非メモリ・テスト売上が増加
- 韓国
DRAMテスト売上が増加
- 日本
ナノテクノロジー製品の売上が寄与

売上総利益率/営業費用/営業利益率



○ 2013年度通期の営業損益

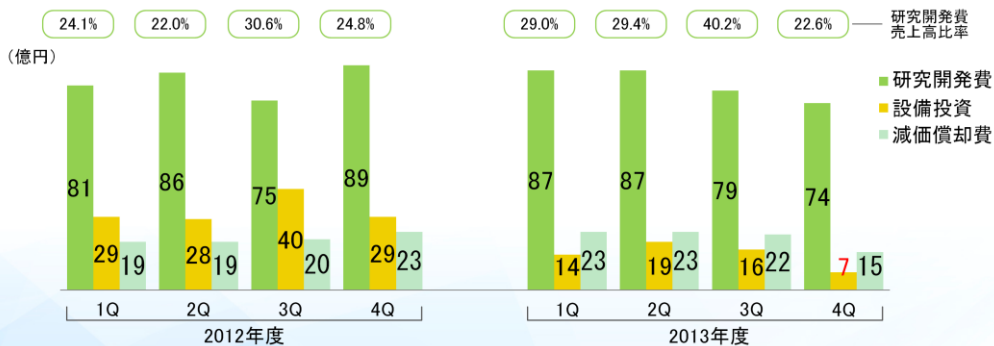
- 売上総利益率 前期51.9%から7.8ポイント悪化 44.1%
- 営業費用 前期688億円から169億円増 857億円
- 営業損失 364億円
- 棚卸資産の評価損40億円、長期性資産の減損135億円を第3四半期に計上

○ 2013年度第4四半期の営業損益

- 売上総利益率 49.0%
第3四半期に計上した特殊要因がなくなったほか、製品ミックスも改善
- 営業費用 180億円
- 営業損失 20億円

研究開発費/設備投資/減価償却費

	2012年度	2013年度
研究開発費 (売上高比率)	331 (24.9%)	327 (29.2%)
設備投資	126	56
減価償却費	81	83



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

12

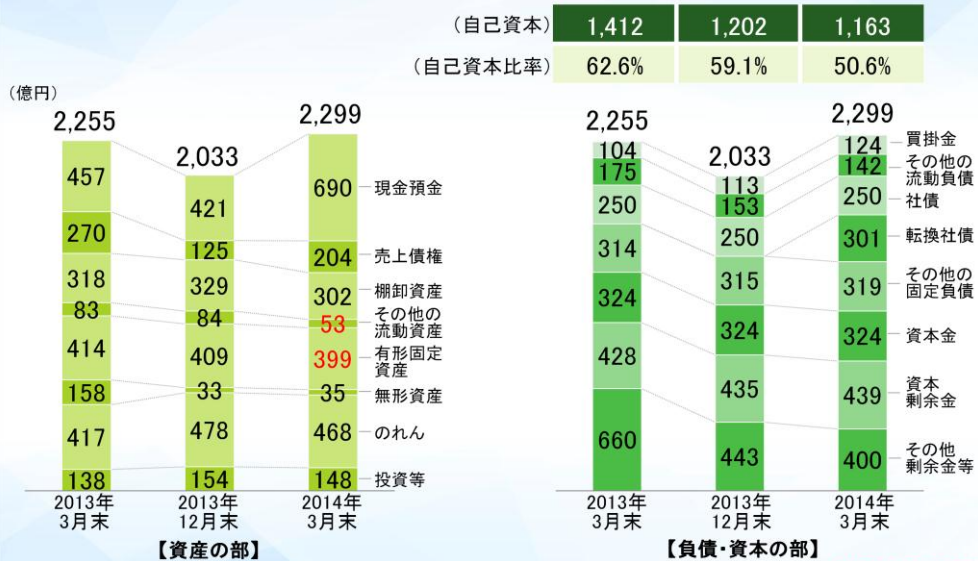
○ 2013年度 営業費用内訳

- コスト構造見直しの一環で、各種投資はこれまで以上にメリハリをつけている
- 研究開発費 327億円
- 設備投資 56億円
- 減価償却費 83億円

○ 2013年度第4四半期は

- 研究開発費 74億円
- 設備投資 7億円
- 減価償却費 15億円

バランス・シート



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

○ 2014年3月末時点のバランス・シート

○ 資産の部

・ 現金預金

3月に300億円の転換社債を発行
2013年12月末比 269億円増 690億円

転換社債については、さまざまな資金調達方式を検討するなかで、
調達規模と発行条件などを総合的に踏まえ発行したもの。
調達資金は成長戦略の推進に活かしていく

- ・ 総資産は 2013年12月末比 266億円増 2,299億円

○ 負債・資本の部

- ・ 転換社債 301億円

- ・ 自己資本 1,163億円

- ・ 自己資本比率

2013年12月末比 8.5ポイント減 50.6%



ADVANTEST

2014年度 事業見通し

“V字回復、売上3割増”

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2014年度業績予想

(億円)

※2014年度業績予想 為替前提: 1米ドル=105円、1ユーロ=140円

	2013年度	2014年度 予想	前年比 金額	前年比 伸び率
(前期末受注残)	(164)	(320)	(+155)	(+94.3%)
受注高	1,274	1,470	+196	+15.4%
受注残	320	340	+20	+6.3%
売上高	1,119	1,450	+331	+29.6%
半導体・部品テストシステム	730	900	+170	+23.3%
メカトロニクス関連	150	250	+100	+66.8%
サービス他	242	300	+58	+24.2%
営業利益	-364	100	+464	-
当期純利益	-355	75	+430	-

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

15

○ 2014年度の業績予想

- 受注高 1,470億円
- 売上高 1,450億円
- 営業利益 100億円
- 当期純利益 75億円
- 事業ごとに、今年度の見通しを説明する

テスト事業の見通し

・全体

- 足元の堅調な受注により、受注残を前年同期比約100億円上積みして新年度入り
- 2014年テスト市場規模推定: 約2.1B\$
- これら環境良化を背景に、今年度のテスト事業売上高は900億円を予想

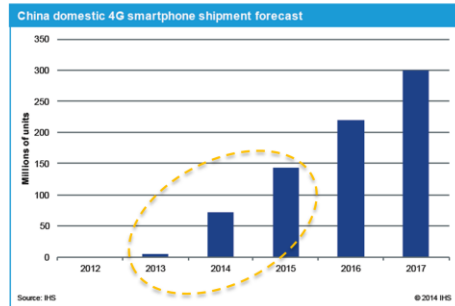
・非メモリ・テスト市場

- 2014年市場規模推定: 約1.7B\$
- 中国LTEスマートフォン関連、MCU向け、車載向けを中核とした市場拡大を想定

・メモリ・テスト市場

- 2014年市場規模推定: 約400M\$
- 中国のスマートフォンの成長を背景に、モバイルDRAM向けのテスト需要が持続

参考データ: 中国内LTEスマートフォン出荷予測 (出所: IHS)



ADVANTEST.

○ テスタ市場の展望について

- ・ 2013年の事業環境を振り返ると、2013年のテスト市場は縮小。しかし、テスト市場の調整局面は既に終了し、足元で受注は大きく回復。結果、受注残を、前年同期比約100億円上積みした状態で新年度入り
- ・ 2014年のテスト市場は、需要調整が終了したことで、前年比14%伸びる21億ドル規模と推定
- ・ これら環境好転を背景に、今年度のテスト事業の売上高は前年度比23%増となる900億円を予想
- ・ 非メモリ・テストの2014年市場見込みは約17億ドル、前年比17%増を想定。中国のLTEスマートフォン普及に関連した投資、MCU、車載向け等が市場成長の中核
- ・ メモリ・テストの2014年市場見込みは、2013年と同規模の4億ドルを想定。需要の中心は、非メモリ・テストと同じく、中国のスマートフォン関連

テスト市場 デバイス別見通し

品種	テスト市場の伸び	当社のポジション	2013→2014 状況変化
デジタルプロセッサ		ハイエンド・スマートフォンではやや劣勢も 当社はミッド/ローエンド・スマートフォン、 ゲーム向けに強み	(ハイエンドスマホ) ○→△ (ローエンドスマホ) △→◎
ベースバンド/RF		中国LTEスマートフォンに関連する顧客と密接な 関係。市場は横ばいだがシェア上昇で増収	◎→◎
MCU		スマートフォン向け高機能品中心にテスト需要増。 昨年度大手顧客を複数獲得、さらに基盤を固める	×→○
車載/アナログ		課題セクターだが、昨年度顧客獲得が進展。 堅調にシェアを伸ばしていく	△→○
DRAM		モバイルDRAMの高速化移行期に差し掛かり、 当社が高シェアを持つ後工程向け投資が拡大	◎→◎
NANDフラッシュ		微細化、3次元化、高速化が進むデバイストレンド を受け、高速NANDテストの販売機会拡大を期待	△→○

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

17

○ テスタ市場 デバイス別の状況について

- デバイス別の2014年度のテスト需要の見通しと当社のポジションを整理
- デジタルプロセッサでは、当社はローエンド・スマートフォン向けの顧客基盤を強化することができた。ハイエンド・スマートフォンではやや劣勢も、全体としてはポジティブ
- ベースバンド、RFといった通信デバイス市場は今年横ばいとなる見通しだが、今後大きく伸びる中国LTE関連の顧客とこれまで密接な関係を構築してきたことが花開くとみている
- MCUは、スマートフォンに使われる高機能品を中心に成長している半導体。昨年度、当社はMCU大手顧客を複数獲得に成功。2014年度に最も伸長を期待している分野
- 車載／アナログ向けは、当社の長年の課題。長い目線で強化中。昨年度から徐々に顧客数が拡大しており、堅調にシェアを伸ばしていけるだろう
- DRAMについては、2013年強かった前工程投資に代わって後工程テスト需要が伸びていく。ミッド/ローエンドのスマートフォンに使われるDRAM高速化に対応するもの
- NANDフラッシュは、テスト市場規模は大きくないが、デバイスの微細化、3次元化、高速化が進展していく中で、当社的高速NANDテストの販売機会の広がりに期待

メカトロニクス事業の見通し

メカトロニクス関連事業
売上高推移 (億円)



・ ナノテクノロジー

- 先端プロセス開発向けEB露光新製品の拡販に取り組む
- 微細化進行に伴いフォトマスク用CD-SEM需要が今年大きく伸長する見通し
既に2013年度第4四半期に大型案件を受注

・ デバイス・インタフェース

- テスタ市場回復との連動需要増を期待
- 当社テスタ上で使用されている他社製DI需要取り込みを強化。大手顧客で既に実績

・ テスト・ハンドラ

- 通信用チップ・車載半導体など
非メモリ半導体向け新製品投入効果を期待

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連事業について

- ・ 今年度メカトロニクスで最も期待しているのが、ナノテクノロジー製品。
ラインアップとしては、EB露光と測長SEMIに2分される
- ・ EB露光装置は、2013年度より販売開始した「F7000」が順調な滑り出し。
引き続き、先端プロセス開発向けなどで売上を伸ばしていきたい
- ・ 測長SEMの主力製品はフォトマスク用のCD-SEM。既に2013年度第4四半期に
大型受注を受け、2014年度の増収に向けて前進している。
半導体の微細化進展に伴って、今年度さらに業績を伸長できる可能性がある
- ・ デバイス・インタフェースは、基本的には新規テスタ販売との需要連動性がある
商品。テスタ市場回復に伴う市況好転を見込む。
大手顧客とのビジネスも獲得した
- ・ テスト・ハンドラは、通信用チップや車載半導体などに向けたSoCハンドラ
新製品を今年市場投入し、売上を伸ばしていく
- ・ メカトロニクス事業の13年度末の受注残は、ナノテクの大型受注もあり、
前年度比約40億円積み増すことができた。それらを踏まえ、事業全体で
通期100億円の増収を見込む

サービス他事業の見通し



・ サービス＆サポート

- 2013年度は年間保守契約の拡大で増収。今期も引き続き取り組む
- 顧客の生産性向上に寄与するソリューションを充実しポストセールス収入基盤を強化

・ テラヘルツシステム

- テラヘルツ波の分光・解析能力への期待が広汎な領域で拡大中。産業向け、基礎研究向けのテラヘルツ波測定器市場を創造



テラヘルツ分光システム「TAS7400」

・ システム・レベル・テスト

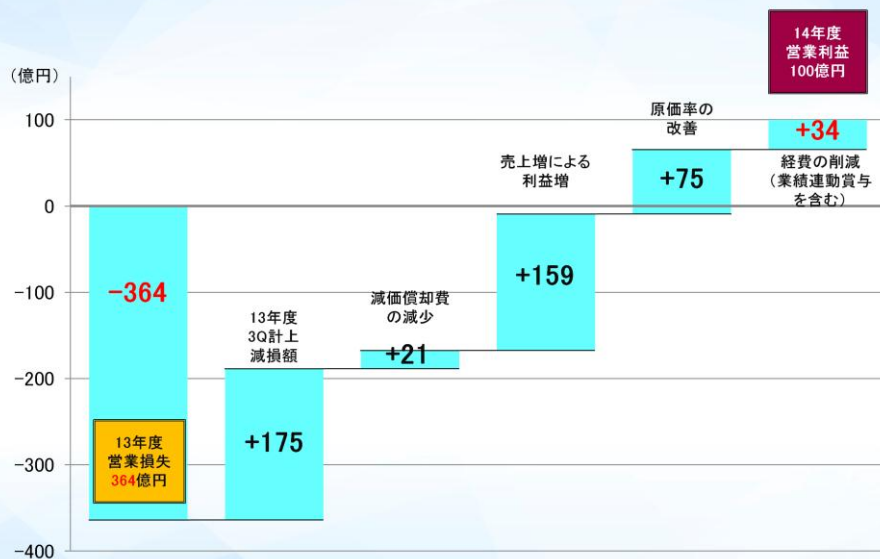
- SSDテスト製品の販売開始により2014年度から業績貢献開始

ADVANTEST.

○ サービス他事業について

- ・ サービス＆サポートでは、2013年度に年間保守契約件数拡大に取り組んだ結果、売上を伸ばすことができた。今年度も取り組みを継続。並行して、顧客の生産性向上に寄与するソリューションも充実させ、テスト本体販売後の収益基盤を拡大
- ・ 新規事業は、さまざまな可能性を見据え幅広く展開するなかで、前年度比30億円程度の増収を想定。なかでも、テラヘルツシステムとSSDテストに期待
- ・ テラヘルツ波を使った非破壊解析機器は、その可能性について認知度と期待が高まりつつある。市場の要求に対する理解も深まり、商品展開も広がってきた。より大きな市場の創出に結び付くよう、産業向け、基礎研究向けそれぞれで事業拡大に取り組む
- ・ もうひとつ、SSDの市場拡大とともに、効率良いSSDのテスト・ソリューションのニーズが高まっているため、SSDテストの商品化を企画。今期から販売開始予定、スムーズに立ち上がりそうな手応え

営業利益前年度比較



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

20

○ 営業利益の改善に向けて

- 昨年度営業損失364億円からの利益改善について
- 昨年度計上した長期性資産減損と棚卸資産評価損の影響が除かれる
- 減価償却費は前年度比21億円減少する予定
- 売上増による利益増として159億円に加え、原価率の改善による効果として75億円を見込む
 - テスタでは新製品への切り替えを計画するほか、利益率の高い製品の売上構成比上昇を見込む
 - メカトロニクスや新規事業でも、利益率のより高い製品の売上増
- 経費削減効果は、業績回復に伴う賞与増加を織り込んでも34億円を想定
- これらを総合し、営業利益100億円を見込む
- 以上説明のとおり、今期は、テスタ市場の回復に乗るとともに、メカトロニクス事業やサービス他事業を伸ばし、営業利益100億円を確実に出していく



ADVANTEST.

2013年度 決算説明会

(訂正前)

2014年4月24日

株式会社アドバンテスト

* 資料中の赤字は5月28日付で発表した決算数値の訂正箇所です

ご注意

- ◆当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST.



ADVANTEST

2013年度 決算報告

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

業績概要

(単位:億円)

	2012年度 通期	2013年度								
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	1月 時点 予想	4Q 実績	前期比 (%)	1月 時点 予想	通期	前年度 比(%)
受注高	1,257	395	214	274	317	391	42.3	1,200	1,274	1.3
売上高	1,329	301	295	197	307	326	66.4	1,100	1,119	-15.8
売上原価	640	148	160	152	-	166	10.0	-	626	-2.2
売上総利益	689	153	135	45	-	160	256.0	-	493	-28.4
営業利益	1	-33	-47	-264	-16	-19	-	-360	-363	-
営業外収支	-14	5	1	-5	-	8	-	-	9	-
税引前純利益	-13	-28	-46	-269	-16	-11	-	-359	-354	-
当期純利益	-38	-36	-57	-248	-18	-14	-	-359	-355	-
受注残	164	258	177	255	264	320	25.2	264	320	94.3

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

○ 2013年度通期の業績概要

- 受注高 1,274億円 前年度比 1.3%増
- 売上高 1,119億円 前年度比 15.8%減
- 営業損失 363億円
- 税引前純損失 354億円
- 当期純損失 355億円
- 半導体試験装置市場が2013年に大きく落ち込んだ影響を受け
テスタ売上が振るわなかった一方で、円安の影響により外貨コスト負担が増加
- 業績の悪化を踏まえ、第3四半期に棚卸資産の評価減、
長期性資産の減損を実施
- 営業外利益 9億円の主なものは 投資有価証券売却益 14億円

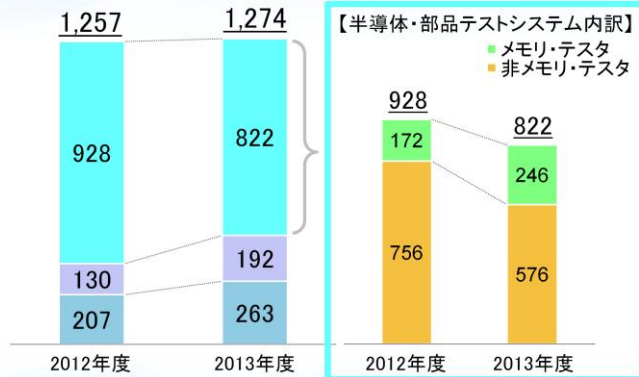
○ 2013年度第4四半期の業績概要

- 受注高 391億円 前期比 42.3%増
- 売上高 326億円 前期比 66.4%増
- 営業損失 19億円
- 税引前純損失 11億円
- 当期純損失 14億円

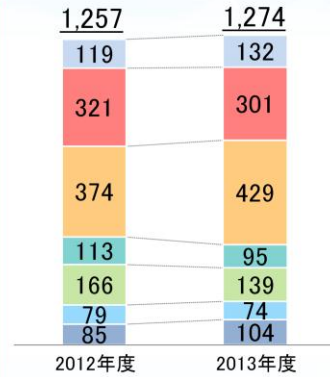
- 受注残 320億円 前年度末比ほぼ倍増

2013年度 受注高実績

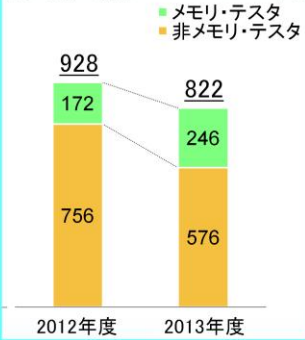
【事業セグメント別】(億円)



【地域別】(億円)



【半導体・部品テストシステム内訳】



■ 半導体・部品テストシステム ■ メカトロニクス関連 ■ サービス他

■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

○ 事業セグメント別、地域別の通期受注実績

○ 事業セグメント別

- 半導体・部品テストシステム事業 822億円 前年度比11%減
軟調なパソコン市場の影響で、MPU向けが低調
ハイエンド・スマートフォン向け需要の盛り上がりを持続せず
2013年の年央から年末まで、非メモリ・テスト需要が減退

メモリ・テストはデバイス需給のタイト感が続いたことで
需要が伸長

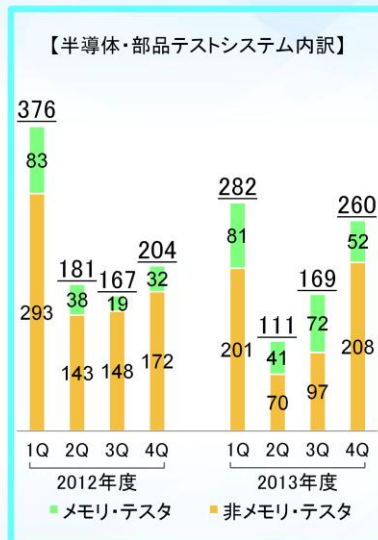
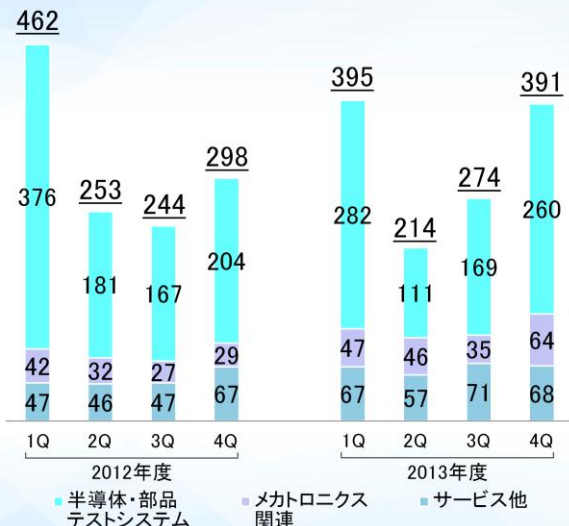
- メカトロニクス関連事業 192億円 前年度比47%増
デバイス・インタフェースの顧客拡大とナノテクノロジー事業の
新製品効果により伸長
- サービス他事業 263億円 前年度比27%増
保守契約の拡大

○ 地域別

- 期初期末にスマートフォン関連需要が旺盛だった台湾が伸長

受注高 四半期・事業セグメント別

(億円)



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

○ 2013年度第4四半期の事業セグメント別受注高

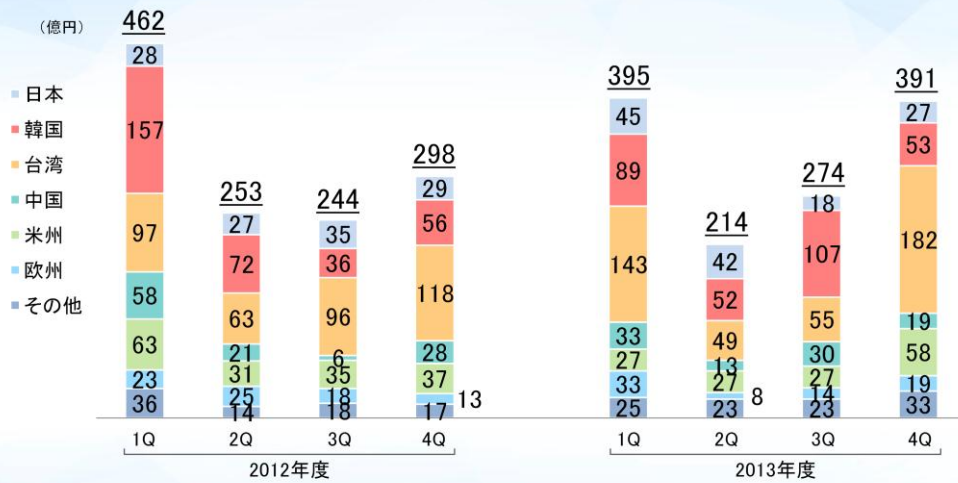
○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比53%増 260億円
うち非メモリ・テスタ 208億円
メモリ・テスタ 52億円
- 中国LTE関連投資拡大の恩恵を受け、通信用ICテスト分野に強い非メモリ・テスタ「V93000」への引合いが増加
MCU向け、車載向けなど強化中の分野も一定の成果

○ メカトロニクス関連事業

- 前期比81%増 64億円
- 半導体の微細化進行を背景に、ナノテクノロジー製品への引合いが増加

受注高 四半期・地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

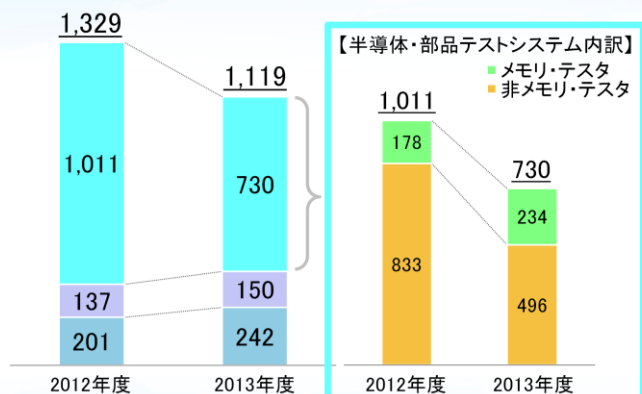
7

○ 2013年度第4四半期の地域別受注高

- 台湾
中国LTEをはじめとするモバイル関連需要の活発化を背景に非メモリ・テスト需要が増加
- 韓国
DRAM前工程投資の一巡による減少

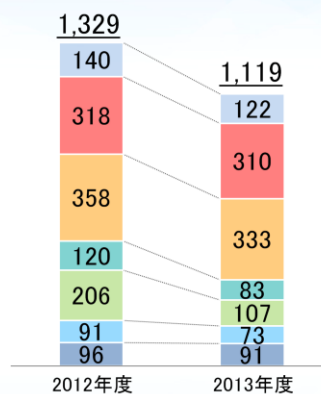
2013年度 売上高実績

【事業セグメント別】(億円)



■ 半導体・部品テストシステム ■ メカトロニクス関連 ■ サービス他

【地域別】(億円)



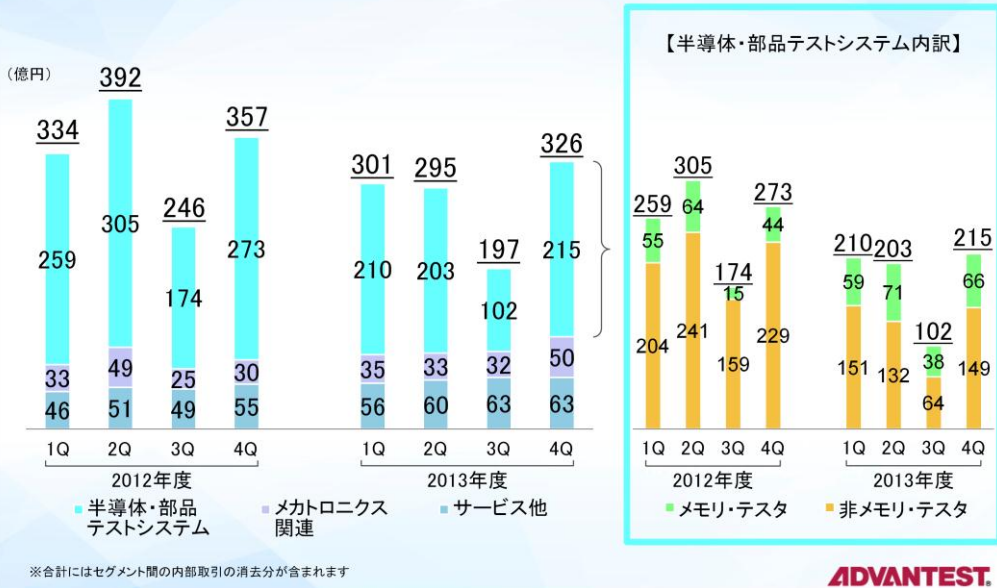
■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

- 事業セグメント別、地域別の通期売上実績
- 事業セグメント別
 - ・ 増減要因は受注高の増減要因と同一
 - ・ 半導体・部品テストシステム事業 730億円 前年度比28%減
 - ・ メカトロニクス関連事業 150億円 前年度比10%増
 - ・ サービス他事業 242億円 前年度比20%増
- 地域別
 - ・ 全体的に減少

売上高 四半期・事業セグメント別



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2013年度第4四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比倍増 215億円
うち非メモリ・テスト 149億円
メモリ・テスト 66億円

(主な増加要因)

モバイル関連の半導体増産傾向の中、非メモリ・テストへの顧客の設備投資意欲が回復

○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比52%増 50億円

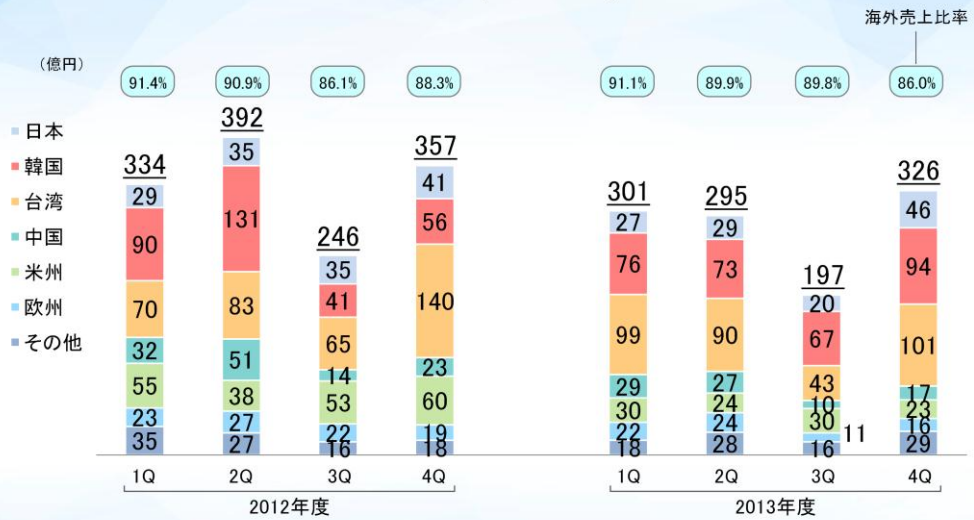
(主な増加要因)

ナノテクノロジー新製品の売上が寄与

○ サービスその他事業

- ・ 前期比横ばい 63億円

売上高 四半期・地域(出荷先)別

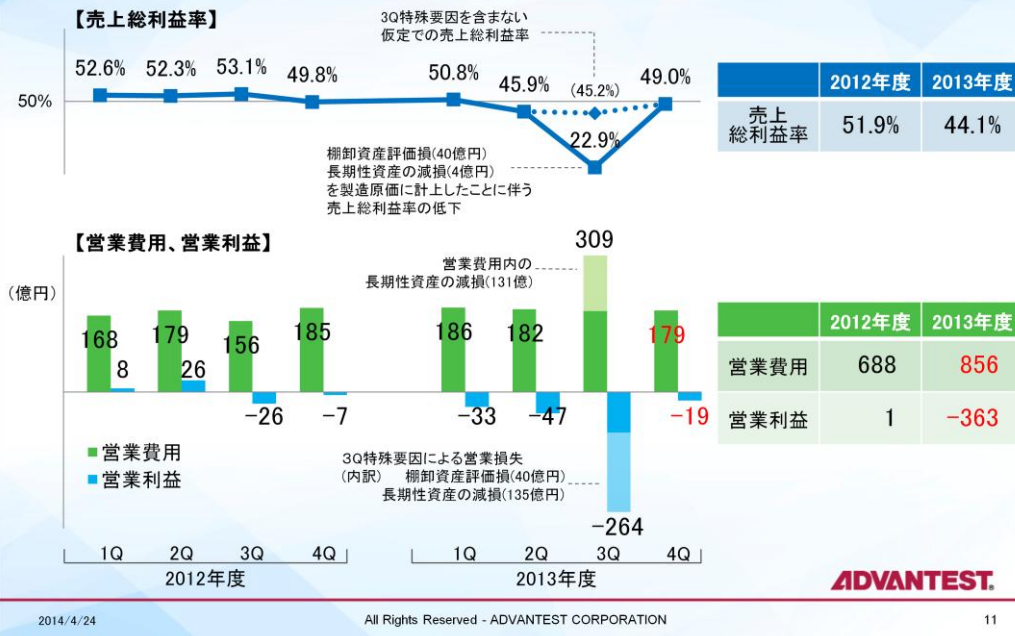


ADVANTEST.

○ 2013年度第4四半期の地域別売上高

- 台湾
モバイル関連機器向けに非メモリ・テスト売上が増加
- 韓国
DRAMテスト売上が増加
- 日本
ナノテクノロジー製品の売上が寄与

売上総利益率/営業費用/営業利益率



○ 2013年度通期の営業損益

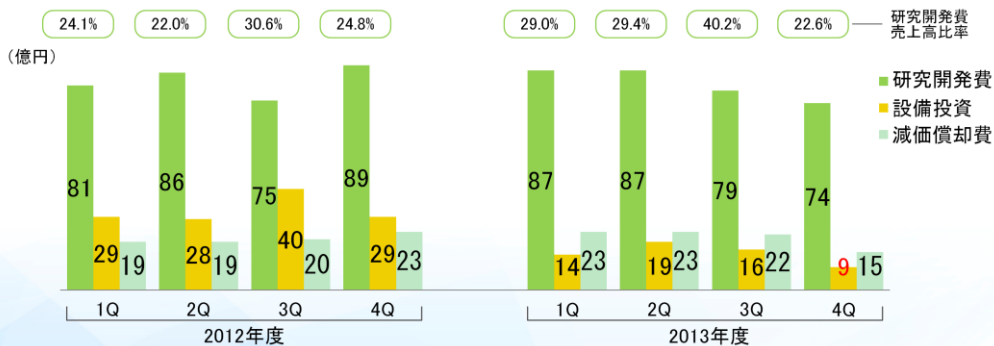
- 売上総利益率 前期51.9%から7.8ポイント悪化 44.1%
- 営業費用 前期688億円から168億円増 856億円
- 営業損失 363億円
- 棚卸資産の評価損40億円、長期性資産の減損135億円を第3四半期に計上

○ 2013年度第4四半期の営業損益

- 売上総利益率 49.0%
第3四半期に計上した特殊要因がなくなったほか、製品ミックスも改善
- 営業費用 179億円
- 営業損失 19億円

研究開発費/設備投資/減価償却費

	2012年度	2013年度
研究開発費 (売上高比率)	331 (24.9%)	327 (29.2%)
設備投資	126	58
減価償却費	81	83



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

12

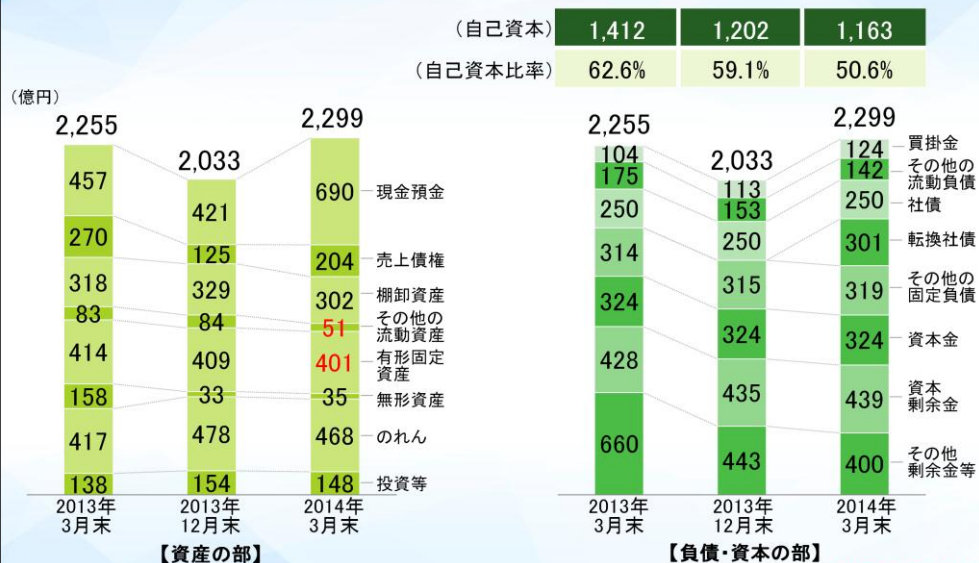
○ 2013年度 営業費用内訳

- コスト構造見直しの一環で、各種投資はこれまで以上にメリハリをつけている
- 研究開発費 327億円
- 設備投資 58億円
- 減価償却費 83億円

○ 2013年度第4四半期は

- 研究開発費 74億円
- 設備投資 9億円
- 減価償却費 15億円

バランス・シート



ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

○ 2014年3月末時点のバランス・シート

○ 資産の部

・ 現金預金

3月に300億円の転換社債を発行
2013年12月末比 269億円増 690億円

転換社債については、さまざまな資金調達方式を検討するなかで、
調達規模と発行条件などを総合的に踏まえ発行したもの。
調達資金は成長戦略の推進に活かしていく

・ 総資産は 2013年12月末比 266億円増 2,299億円

○ 負債・資本の部

・ 転換社債 301億円

・ 自己資本 1,163億円

・ 自己資本比率

2013年12月末比 8.5ポイント減 50.6%



ADVANTEST

2014年度 事業見通し

“V字回復、売上3割増”

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2014年度業績予想

(億円)

※2014年度業績予想 為替前提: 1米ドル=105円、1ユーロ=140円

	2013年度	2014年度 予想	前年比 金額	前年比 伸び率
(前期末受注残)	(164)	(320)	(+155)	(+94.3%)
受注高	1,274	1,470	+196	+15.4%
受注残	320	340	+20	+6.3%
売上高	1,119	1,450	+331	+29.6%
半導体・部品テストシステム	730	900	+170	+23.3%
メカトロニクス関連	150	250	+100	+66.8%
サービス他	242	300	+58	+24.2%
営業利益	-363	100	+463	-
当期純利益	-355	75	+430	-

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

15

○ 2014年度の業績予想

- 受注高 1,470億円
- 売上高 1,450億円
- 営業利益 100億円
- 当期純利益 75億円
- 事業ごとに、今年度の見通しを説明する

テスト事業の見通し

・全体

- 足元の堅調な受注により、受注残を前年同期比約100億円上積みして新年度入り
- 2014年テスト市場規模推定: 約2.1B\$
- これら環境良化を背景に、今年度のテスト事業売上高は900億円を予想

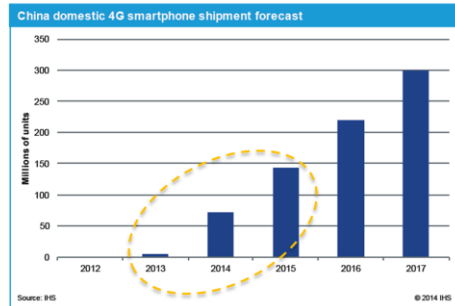
・非メモリ・テスト市場

- 2014年市場規模推定: 約1.7B\$
- 中国LTEスマートフォン関連、MCU向け、車載向けを中核とした市場拡大を想定

・メモリ・テスト市場

- 2014年市場規模推定: 約400M\$
- 中国のスマートフォンの成長を背景に、モバイルDRAM向けのテスト需要が持続

参考データ: 中国内LTEスマートフォン出荷予測 (出所: IHS)



ADVANTEST.

○ テスタ市場の展望について

- ・ 2013年の事業環境を振り返ると、2013年のテスト市場は縮小。しかし、テスト市場の調整局面は既に終了し、足元で受注は大きく回復。結果、受注残を、前年同期比約100億円上積みした状態で新年度入り
- ・ 2014年のテスト市場は、需要調整が終了したことで、前年比14%伸びる21億ドル規模と推定
- ・ これら環境好転を背景に、今年度のテスト事業の売上高は前年度比23%増となる900億円を予想
- ・ 非メモリ・テストの2014年市場見込みは約17億ドル、前年比17%増を想定。中国のLTEスマートフォン普及に関連した投資、MCU、車載向け等が市場成長の中核
- ・ メモリ・テストの2014年市場見込みは、2013年と同規模の4億ドルを想定。需要の中心は、非メモリ・テストと同じく、中国のスマートフォン関連

テスト市場 デバイス別見通し

品種	テスト市場の伸び	当社のポジション	2013→2014 状況変化
デジタルプロセッサ		ハイエンド・スマートフォンではやや劣勢も 当社はミッド/ローエンド・スマートフォン、 ゲーム向けに強み	(ハイエンドスマホ) ○→△ (ローエンドスマホ) △→◎
ベースバンド/RF		中国LTEスマートフォンに関連する顧客と密接な 関係。市場は横ばいだがシェア上昇で増収	◎→◎
MCU		スマートフォン向け高機能品中心にテスト需要増。 昨年度大手顧客を複数獲得、さらに基盤を固める	×→○
車載/アナログ		課題セクターだが、昨年度顧客獲得が進展。 堅調にシェアを伸ばしていく	△→○
DRAM		モバイルDRAMの高速化移行期に差し掛かり、 当社が高シェアを持つ後工程向け投資が拡大	◎→◎
NANDフラッシュ		微細化、3次元化、高速化が進むデバイストレンド を受け、高速NANDテストの販売機会拡大を期待	△→○

ADVANTEST.

2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

17

○ テスタ市場 デバイス別の状況について

- デバイス別の2014年度のテスト需要の見通しと当社のポジションを整理
- デジタルプロセッサでは、当社はローエンド・スマートフォン向けの顧客基盤を強化することができた。ハイエンド・スマートフォンではやや劣勢も、全体としてはポジティブ
- ベースバンド、RFといった通信デバイス市場は今年横ばいとなる見通しだが、今後大きく伸びる中国LTE関連の顧客とこれまで密接な関係を構築してきたことが花開くとみている
- MCUは、スマートフォンに使われる高機能品を中心に成長している半導体。昨年度、当社はMCU大手顧客を複数獲得に成功。2014年度に最も伸長を期待している分野
- 車載／アナログ向けは、当社の長年の課題。長い目線で強化中。昨年度から徐々に顧客数が拡大しており、堅調にシェアを伸ばしていけるだろう
- DRAMについては、2013年強かった前工程投資に代わって後工程テスト需要が伸びていく。ミッド/ローエンドのスマートフォンに使われるDRAM高速化に対応するもの
- NANDフラッシュは、テスト市場規模は大きくないが、デバイスの微細化、3次元化、高速化が進展していく中で、当社的高速NANDテストの販売機会の広がりに期待

メカトロニクス事業の見通し

メカトロニクス関連事業
売上高推移 (億円)



・ ナノテクノロジー

- 先端プロセス開発向けEB露光新製品の拡販に取り組む
- 微細化進行に伴いフォトマスク用CD-SEM需要が今年大きく伸長する見通し
既に2013年度第4四半期に大型案件を受注

・ デバイス・インタフェース

- テスタ市場回復との連動需要増を期待
- 当社テスタ上で使用されている他社製DI需要取り込みを強化。大手顧客で既に実績

・ テスト・ハンドラ

- 通信用チップ・車載半導体など
非メモリ半導体向け新製品投入効果を期待

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連事業について

- ・ 今年度メカトロニクスで最も期待しているのが、ナノテクノロジー製品。
ラインアップとしては、EB露光と測長SEMIに2分される
- ・ EB露光装置は、2013年度より販売開始した「F7000」が順調な滑り出し。
引き続き、先端プロセス開発向けなどで売上を伸ばしていきたい
- ・ 測長SEMの主力製品はフォトマスク用のCD-SEM。既に2013年度第4四半期に
大型受注を受け、2014年度の増収に向けて前進している。
半導体の微細化進展に伴って、今年度さらに業績を伸長できる可能性がある
- ・ デバイス・インタフェースは、基本的には新規テスタ販売との需要連動性がある
商品。テスタ市場回復に伴う市況好転を見込む。
大手顧客とのビジネスも獲得した
- ・ テスト・ハンドラは、通信用チップや車載半導体などに向けたSoCハンドラ
新製品を今年市場投入し、売上を伸ばしていく
- ・ メカトロニクス事業の13年度末の受注残は、ナノテクの大型受注もあり、
前年度比約40億円積み増すことができた。それらを踏まえ、事業全体で
通期100億円の増収を見込む

サービス他事業の見通し



・ サービス&サポート

- 2013年度は年間保守契約の拡大で増収。今期も引き続き取り組む
- 顧客の生産性向上に寄与するソリューションを充実しポストセールス収入基盤を強化

・ テラヘルツシステム

- テラヘルツ波の分光・解析能力への期待が広汎な領域で拡大中。産業向け、基礎研究向けのテラヘルツ波測定器市場を創造



テラヘルツ分光システム
「TAS7400」

・ システム・レベル・テスト

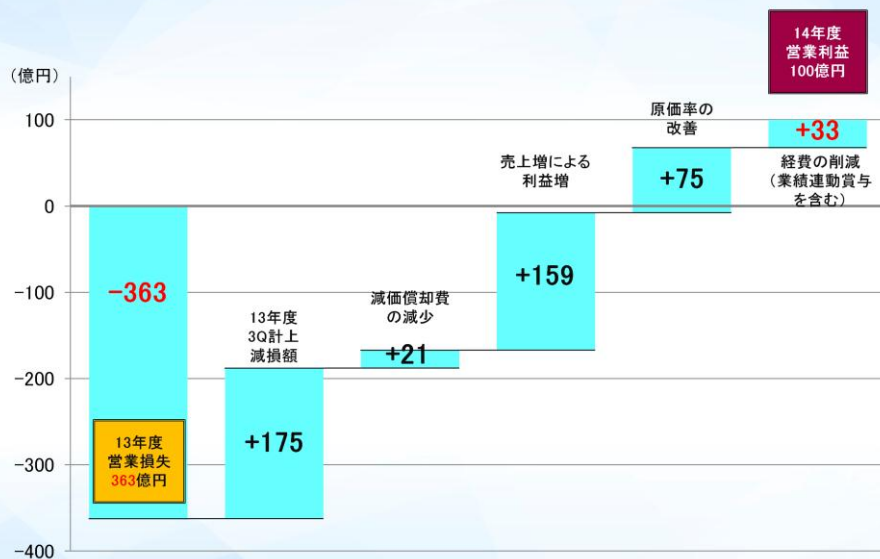
- SSDテスト製品の販売開始により2014年度から業績貢献開始

ADVANTEST.

○ サービス他事業について

- ・ サービス&サポートでは、2013年度に年間保守契約件数拡大に取り組んだ結果、売上を伸ばすことができた。今年度も取り組みを継続。並行して、顧客の生産性向上に寄与するソリューションも充実させ、テスト本体販売後の収益基盤を拡大
- ・ 新規事業は、さまざまな可能性を見据え幅広く展開するなかで、前年度比30億円程度の増収を想定。なかでも、テラヘルツシステムとSSDテストに期待
- ・ テラヘルツ波を使った非破壊解析機器は、その可能性について認知度と期待が高まりつつある。市場の要求に対する理解も深まり、商品展開も広がってきた。より大きな市場の創出に結び付くよう、産業向け、基礎研究向けそれぞれで事業拡大に取り組む
- ・ もうひとつ、SSDの市場拡大とともに、効率良いSSDのテスト・ソリューションのニーズが高まっているため、SSDテストの商品化を企画。今期から販売開始予定、スムーズに立ち上がりそうな手応え

営業利益前年度比較



2014/4/24

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

20

○ 営業利益の改善に向けて

- 昨年度営業損失363億円からの利益改善について
- 昨年度計上した長期性資産減損と棚卸資産評価損の影響が除かれる
- 減価償却費は前年度比21億円減少する予定
- 売上増による利益増として159億円に加え、原価率の改善による効果として75億円を見込む
 - テスタでは新製品への切り替えを計画するほか、利益率の高い製品の売上構成比上昇を見込む
 - メカトロニクスや新規事業でも、利益率のより高い製品の売上増
- 経費削減効果は、業績回復に伴う賞与増加を織り込んでも33億円を想定
- これらを総合し、営業利益100億円を見込む
- 以上説明のとおり、今期は、テスタ市場の回復に乗るとともに、メカトロニクス事業やサービス他事業を伸ばし、営業利益100億円を確実に出していく